

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年 2月 24日

事業所名 放課後等デイサービスささゆり (6配布6回収)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	運動ができる広い空間 各支援、活動に応じた空間を確保している	全職員が運営基準を理解する 活動に参加できない児童の対応を強化する 児童の状態把握のためサインの活用する
	2	職員の配置数は適切である	6	0	基準より常時2~3人多い体制 職員間で声を掛け合う	全職員が運営基準を理解する 運動や学習、イベント等手薄とならないよう担当や役割の明確化する 個別対応時の声掛けを行う
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	0	玄関以外はバリアフリー	非常災害時を想定し日頃から整理整頓する
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1	日々報連相を大切にしている	各業務について期日を明確化する どんな業務をしているかなど職員間の連携を強化する 優先順位を共有する
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	申し送りや振り返りだけでなく、アンケート調査後に会議を行い、課題の共有・改善点を検討している	定期的に保護者の意向を共有・把握し、具体的な改善案を出す
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	ホームページでの公開とともに保護者へ書面を配布している	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	6		今後、検討する
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	定期的な研修とともにレポート作成している レポートを基に全体の振り返りを行っている	研修後に具体的な実践と評価(振り返り)を実施する
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	体験を通して状態を把握している 児童発達支援管理責任者を中心に全職員が意見を出し合っている	児童発達支援管理責任者が保護者との面談予定を職員に告知し把握する
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	2	アセスメントシートを見て支援にあたっている	より一層客観的に把握するためのアセスメントシート項目を再検討する
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1	会議を設け児童の特性、相性、人数等状況に応じて検討している	全職員が意見を出す サブ職員の役割を明確化する ねらい設定とともに児童の特性や課題を想定する
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1	楽しさを最重要視しながらねらいや目標設定している	今までの活動をリストアップし、カテゴリー・ジャンル分けする
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	1	楽しさを最重要視しながらねらいや目標設定している	楽しさと児童の特性や課題とのバランスを考える
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	児童発達支援管理責任者を中心に全職員が意見を出し合っている	楽しさと児童の特性や課題とのバランスを考える
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1	毎日時間を確保している	その日の利用児童の特性や最近の様子を把握し、様々な場面の想定、支援や関わり方を共有する
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	毎日時間を確保している	日によって業務に追われ時間がなく内容が薄くなってしまふ日がある為、状況に応じて業務改善を行い時間を確保する
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	1	個別支援計画に基づいて記録している	毎日の振り返りを充実させ、もう少し踏み込んだ場面の検証を行う
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	0	事前会議を行い、全職員が意見を出し合っている	児童発達支援管理責任者が保護者との面談予定を職員に告知し把握する	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	6	0	楽しさを最重要視しながらねらいや目標設定している	全職員がガイドラインを読み、理解を深める	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	事前にモニタリング意見書を作成し、児童発達支援管理責任者が参画している	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	2	定期的に利用報告書を作成し情報共有している 日頃から情報を求めている 違和感があればすぐに確認している	確認しているが下校時間の把握にミスがある為、同じミスにならない確認体制を整える
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	6		医療的ケアの必要な児童がいないが、対応できる職員もいない、また連絡体制も整備できていない為、検討していく
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	3		保育所や幼稚園との情報共有が薄いため、もっと情報を求めていく
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	6		現在、中学校及び高校生を受け入れていない為、今後必要に応じて検討していく
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	0	児童発達支援センターと定期的にモニタリングを行い助言してもらっている	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	6	地区の自治会に参画し検討している	新型コロナウイルス感染症などの影響だけでなく、児童の特性や課題、個人情報保護の観点から慎重に判断していく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	6		今後検討していく
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	日頃よりHUGでの様子の共有のほか、引継ぎ時や送迎時に行っている	実際にかかわった時の関わりやエピソードが対応できずに伝えきれていない時がある為、今後職員間で共有し可能な限り毎利用時に伝えられるようにしていく
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	5	主にモニタリング時に支援を行っている	ペアレントトレーニングとして実施できていない為、機会を作っていく	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	分かりやすさを意識し低根拠に説明し、必要に応じて再度説明を行っている	管理者・児童発達支援管理責任者だけでなく、他の職員も運営規定、利用契約書、重要事項説明書を読み、理解を深める
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1	何かあればその都度支援を行っている	内容によってはしっかりと精査して支援・対応していく
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	6		新型コロナウイルス感染症などの影響から全く実施できていなかったが、今後は検討していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	2	丁寧な対応を心掛けている	全職員が細かい所まで把握し、理解に努める
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	2	イベントカレンダーや必要に応じてお知らせを配布している	災害時等緊急時の連絡体制を整えていく
	35	個人情報に十分注意している	6	0	研修を行い意識を高めている	送迎車のサインが大きく気になる家庭があるかもしれないため今後検討する
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	各家庭の状況に合わせ対応している	状況によっては家庭との連携が困難な時がある為、その都度検討していく
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	6	地区の自治会に参画し検討している	新型コロナウイルス感染症などの影響だけでなく、児童の特性や課題、個人情報保護の観点から慎重に判断していく

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	0	研修や見直しを行っている 保護者にはお知らせなどで必要に応じて配布している	全職員がマニュアルを読み、理解を深める
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	地域の消防署にも参加してもらい定期的に行っている 地震に関しては起震車体験も実施している	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	定期的に研修を行い、意識を高めている	虐待は「絶対してはいけない」意識を強く持ち、研修だけでなく事例検討を通し場面に応じた支援を検討する
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	1	5	身体拘束の必要性ではなく、支援をどう工夫していくか検討している	現在身体拘束を必要とする児童はいないが、定期的に研修を行い理解を深めていく
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0	全職員がアレルギーを把握している	調理イベント等の際、アレルギーだけでなく、好き嫌いも確認する
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	1	ヒヤリハット、事故など共有する とともに支援内容や関わりを検討している	場面によってどこからどこまでがヒヤリハットなのか、事故なのか統一理解を持つ 報告だけでなく、具体的な改善案、支援方法を検討していく